

黄櫨染の染色科学

解野研究室 A20AB101 則竹沙耶

1.はじめに

黄櫨染とはハゼで下染めしたものにスオウで重ね染めすることによって得られる黄色味のある茶色で、天皇のみが着用を許された禁色である。

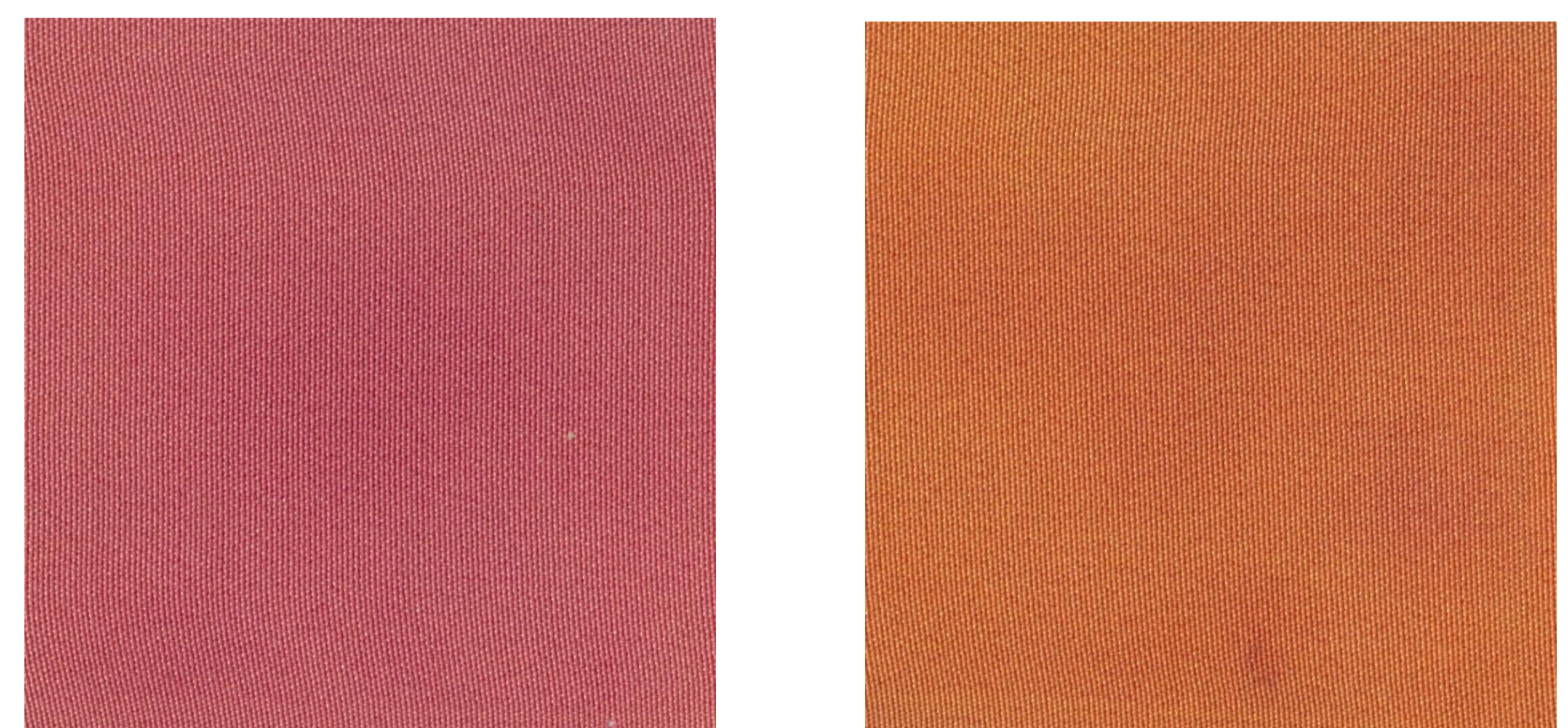
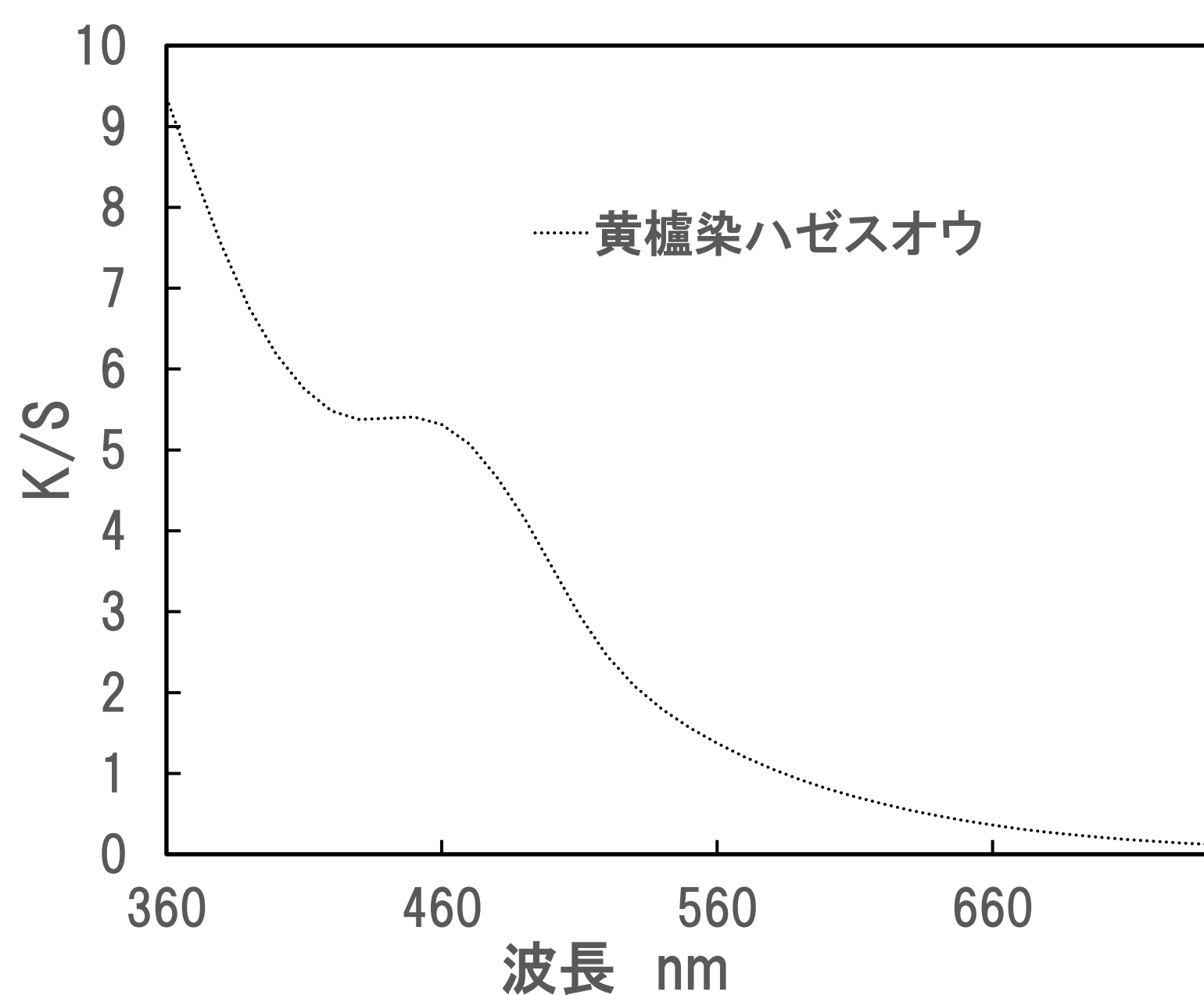
ハゼの代替としてフィセチンを使用するため、フィセチンとスオウの染色性を理解し、重ね染めを習熟する。また、「延喜式」の染色方法に倣った黄櫨染の再現を目的とする。

2.方法

- ・布試料には絹精華パレス100%（（株）色染社）を使用した。
- ・試薬には炭酸カリウム、硫酸カリウムアルミニウムを使用した。
- ・染料にはフィセチン（Combi-Blocks）、スオウ液67（田中直染料店）を使用した。

3.結果

重ね染めした絹織物の分光反射率と色度図を以下に示す。

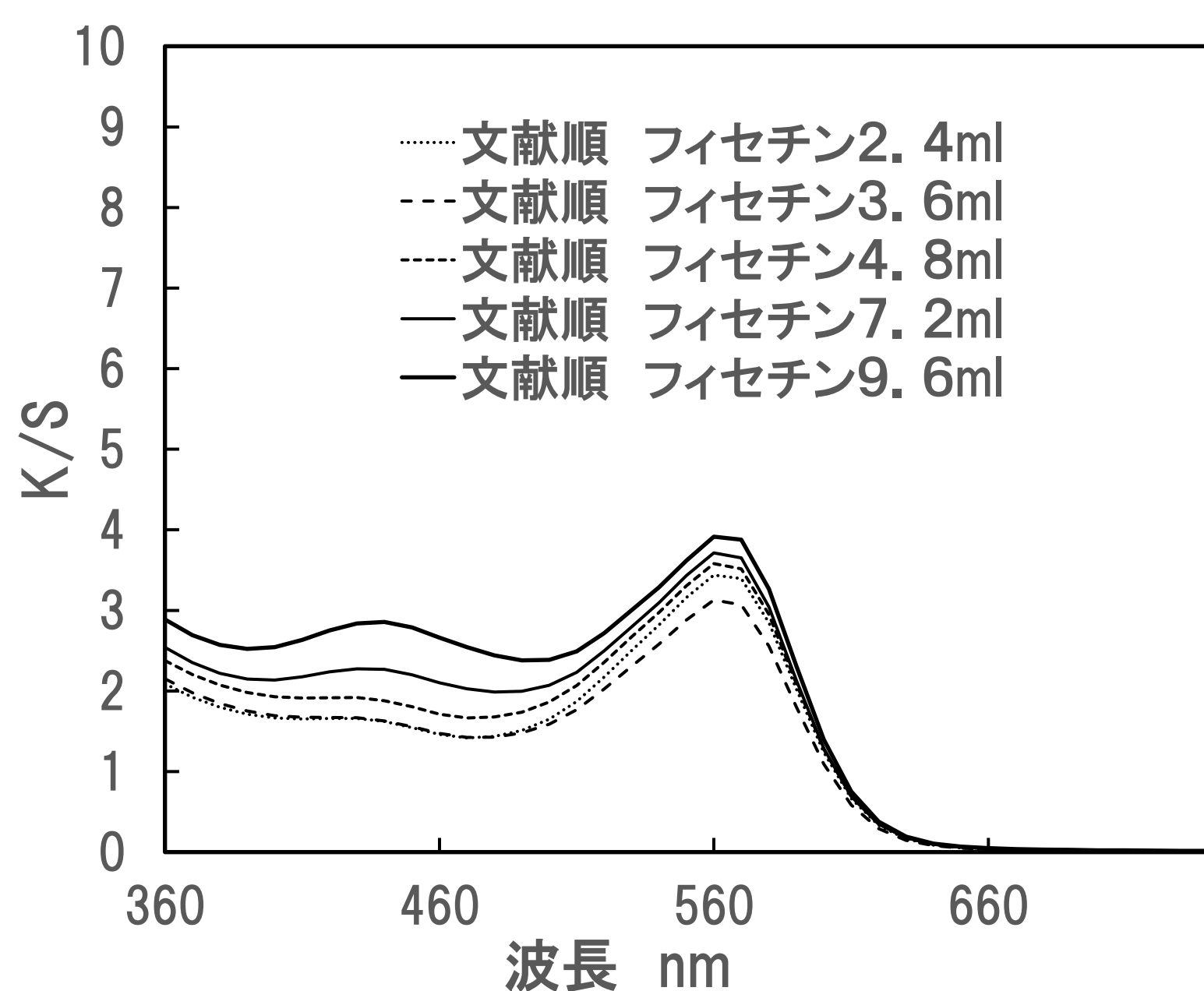


文献順

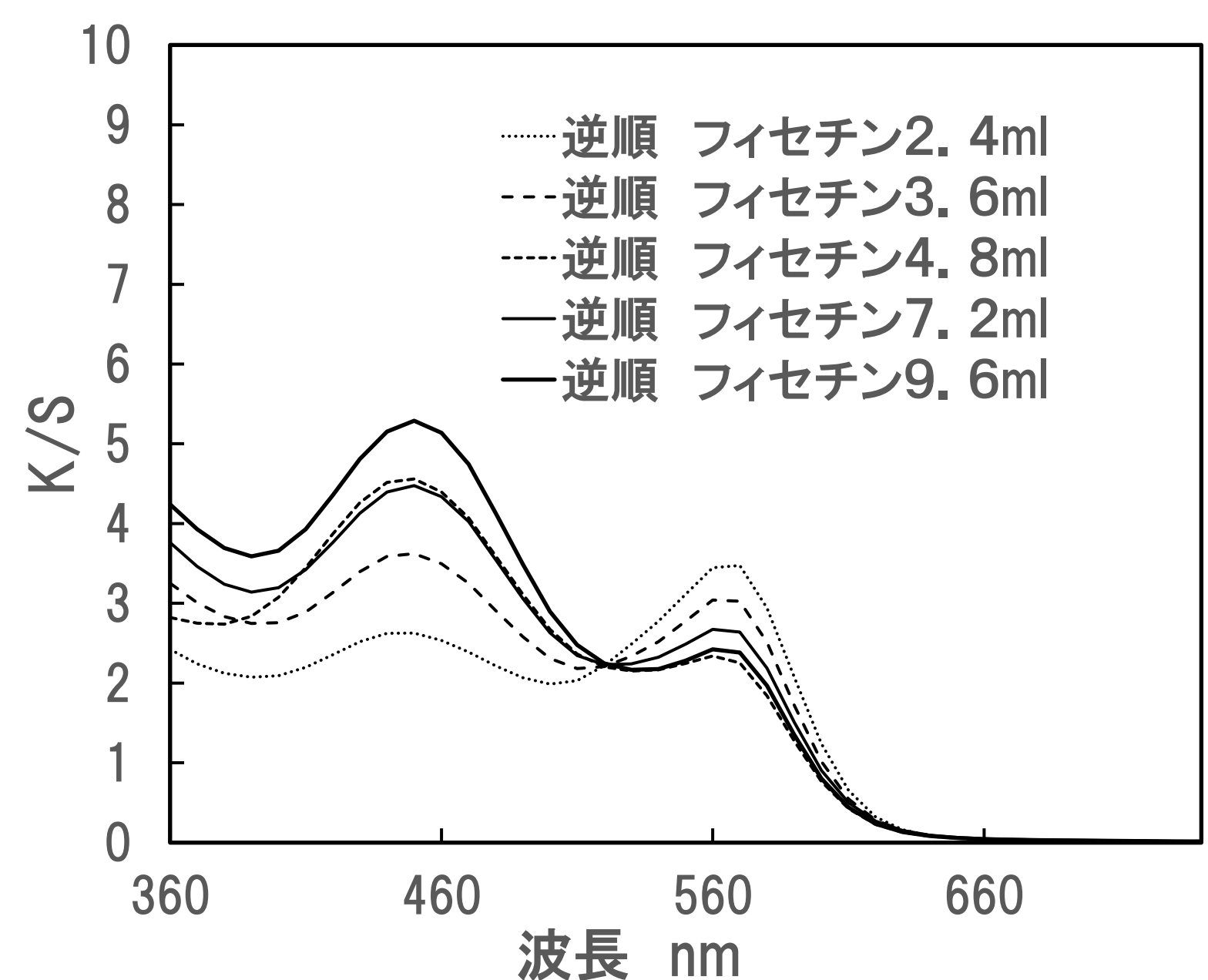
逆順

ハゼとスオウにより染色された色見本の分光反射率

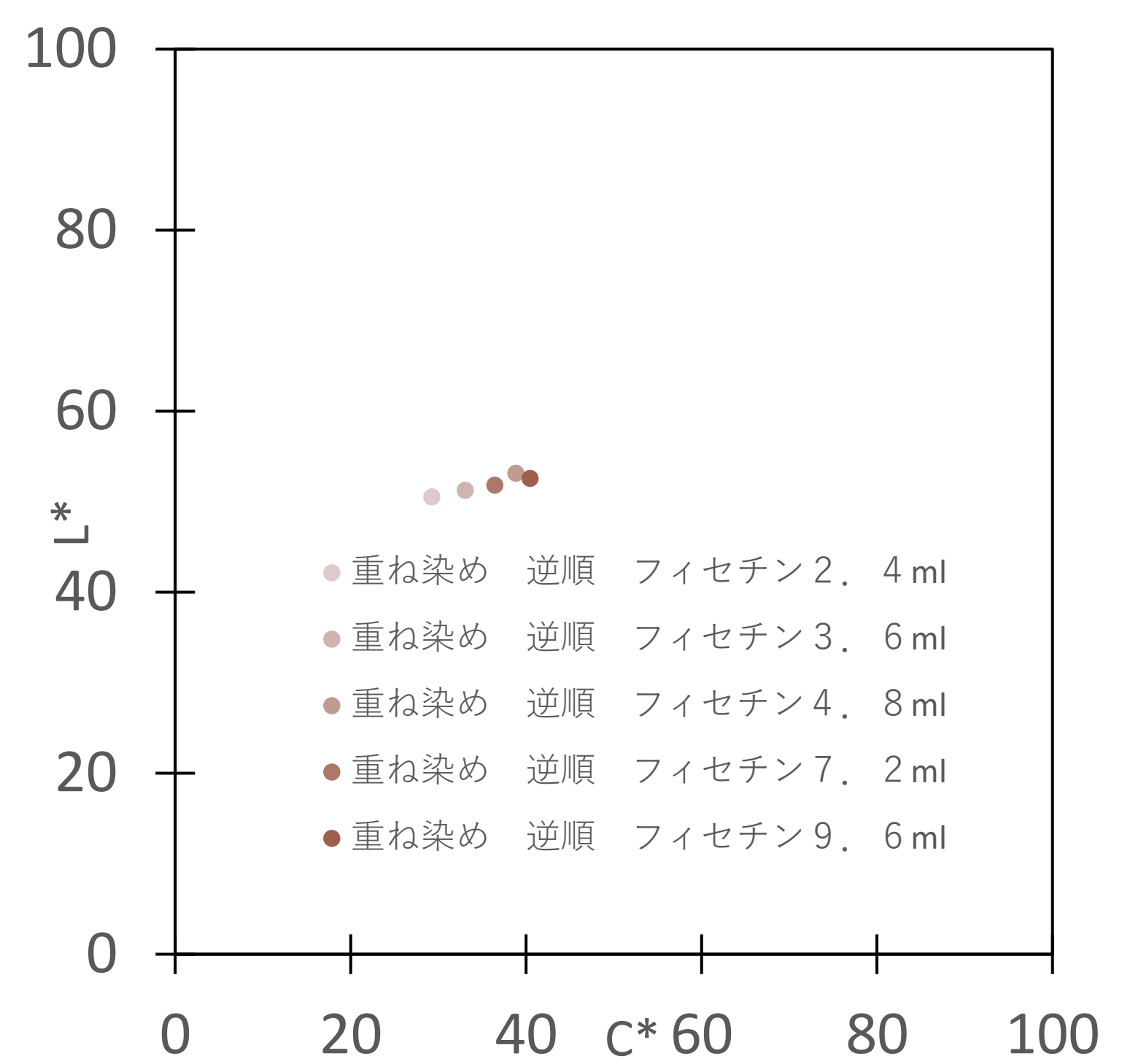
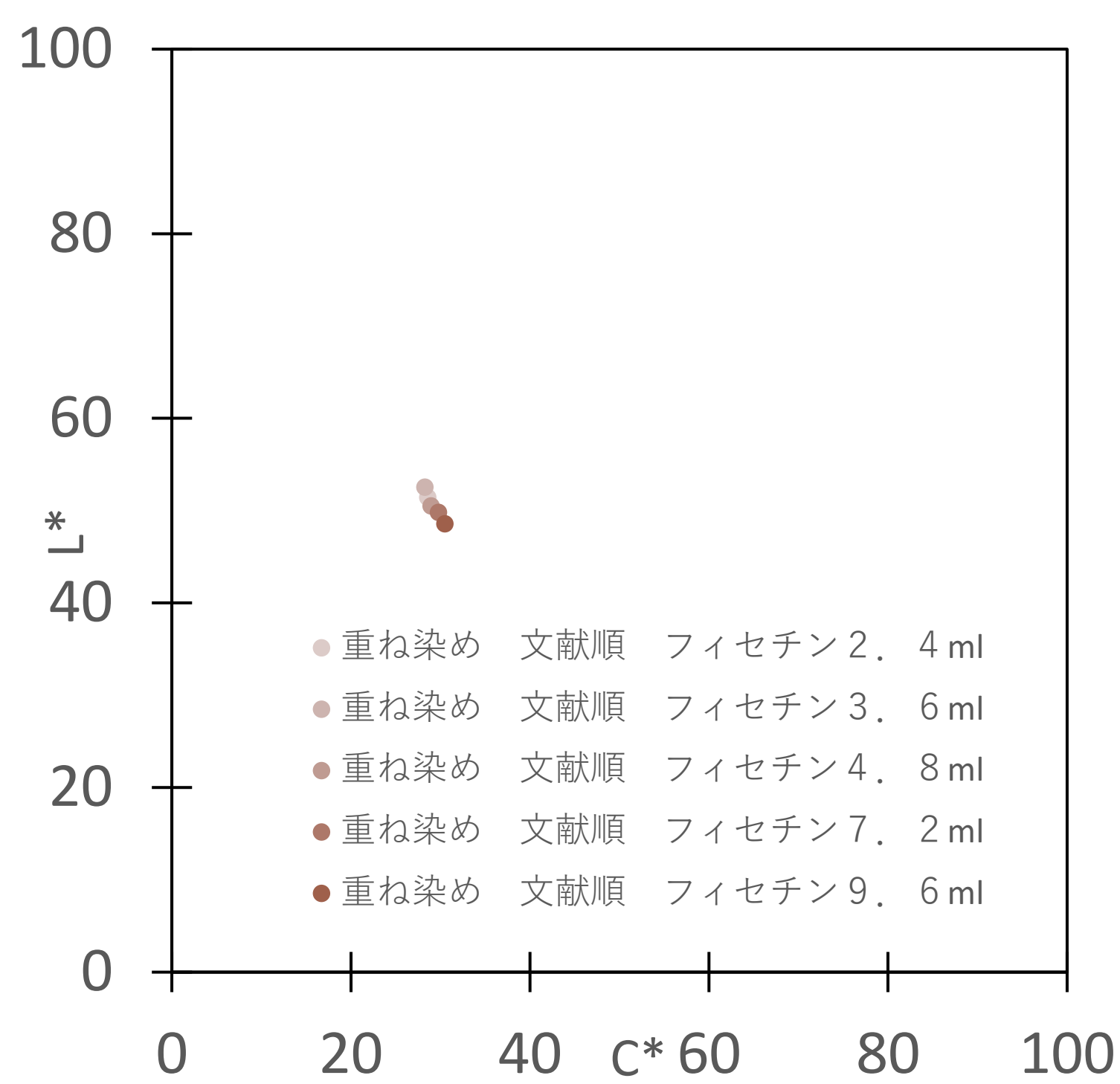
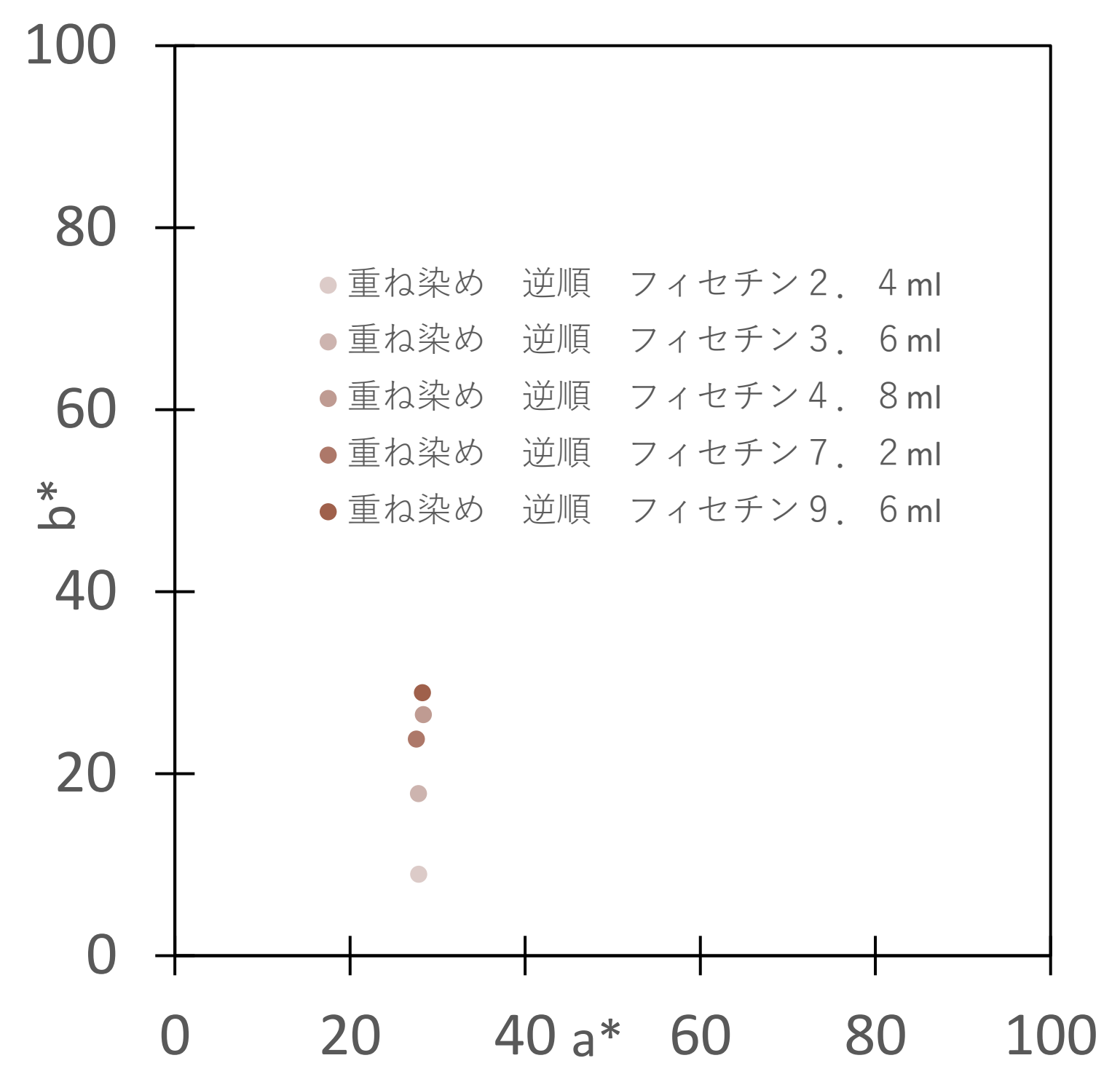
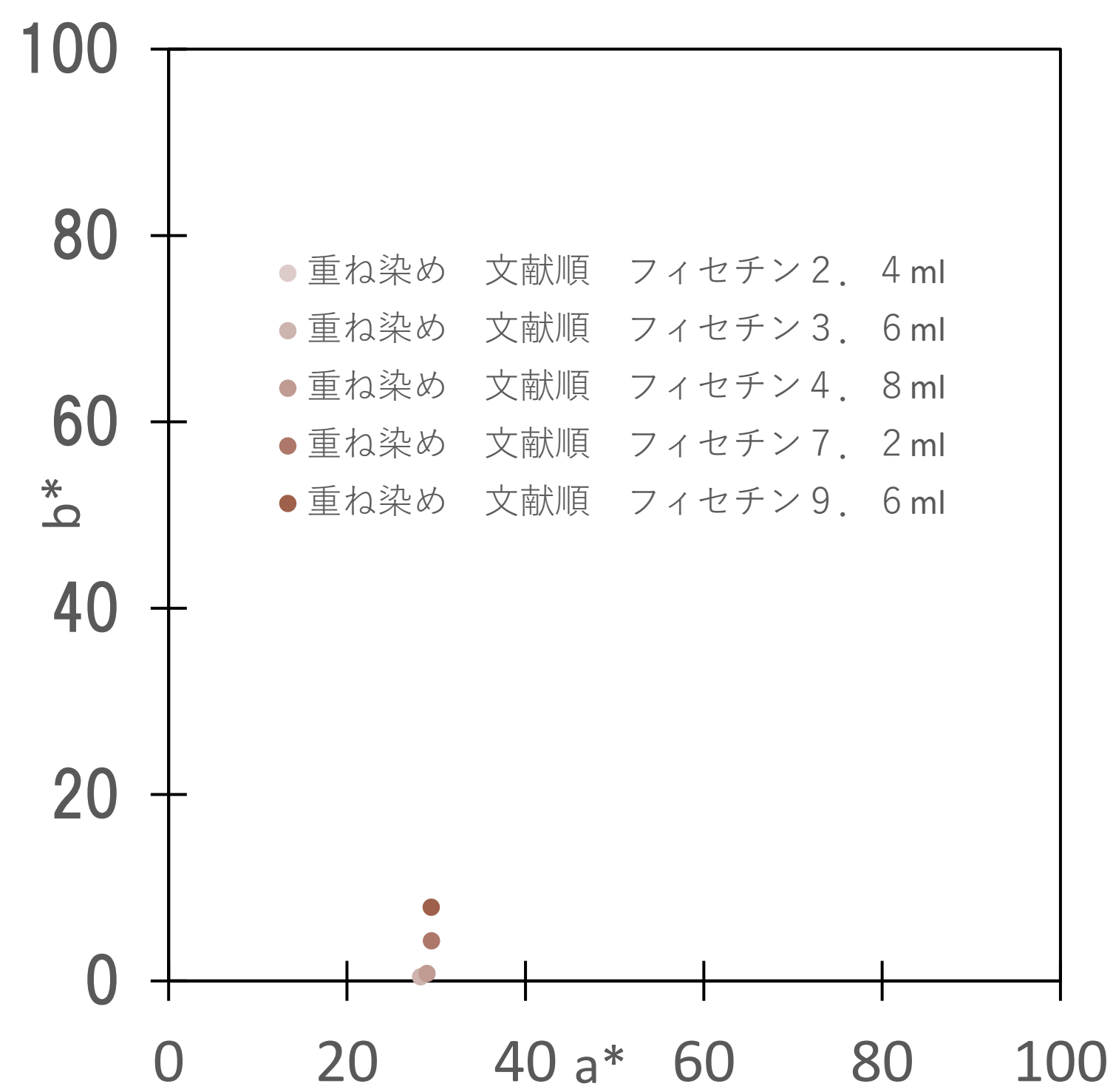
実験により重ね染めした絹織物



フィセチン下染→スオウ重染の分光反射率



スオウ下染→フィセチン重染の分光反射率



文献順

逆順

フィセチンとスオウで重ね染めした絹織物の色度図

4. 考察

- いずれも高い染色性が得られる。
- 通説とされる染色法よりも逆順での染色の方が、黄色味が強い。
- 逆順において530nm近傍に等吸収点が認められることから、スオウからフィセチンへと染料の交換が行われていると推定される。
- 文献による順番の方が正しいと推測できるものの、スペクトルの類似性が低い要因としてハゼに含まれるフィセチン以外の黄色色素や紫外域に吸収を有し絹に染着性を示す物質が関与しているのではないかと推定される。